

奥谷 太一展 ^{くろ} 空

本館6階 美術画廊【洋画】

1980年神奈川県に生まれる。2005年東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業。2007年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻(油画)修了。これまで人種の多様性をテーマに制作を続けて来られた奥谷太一氏。最近では関心は人間社会だけでなく、動物や植物を含むあらゆる生命へと広がり、それぞれが互いにに関わり合いながら存在していることに目を向けるようになったと氏は言います。私たちは日々、無数の関係性の中で生きています。人と人との出会い、ものの働き、偶然の出来事、自然の営み——それら一つひとつは小さな存在でありながら、複雑に重なり合い、思いがけない変化や新たなつながりを生み出しています。世界は決して独立した要素の集合ではなく、互いに影響し合う見えない糸によって成り立っているのではないのでしょうか。本展の作品は、そうした目には見えない関係性や、偶然から生まれる予測不能な流れに光を当てて、鑑賞者それぞれが作品と向き合う中で、自身を取り巻く人々や環境とのつながりに思いを巡らせ、新たな発見や気づきを得る機会となれば幸いです。

【ギャラリートーク】9月5日(土)午後2時から

9.2 WED~9.7 MON

「漆黒のドリル」
H193.9×W259.1cm
油彩、キャンバス



岩谷 晃太展

— 青・漠 —

1989年生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程日本画研究領域を修了後、院展を中心に作品を発表。洗練された画面構成で描きあげられた、月や稲妻といったモチーフは作家を代表する作品である。今展では新作となる【青】の美しさを引き出した作品を展観。

9.2 WED~9.7 MON

「月と稲妻」
H40.9×W27.3cm
雲肌麻紙、天然岩絵具



益村 千鶴

本館6階 美術画廊X【絵画】

IMMANENCE 内在する知層

1972年山口県に生まれ、1993年に比治山女子短期大学美術科を卒業。低彩度で繊細に調和した色調、美しく構成された画面、そして静けさの奥に微かな違和感を宿す世界観。写実を基盤としつつ、古典絵画が持つ普遍性と、現代を生きる私たちの感覚や感情を静かに纏わせた益村氏の作品。

高島屋初個展となる今展では、新作の油彩に加え、近年取り組みはじめた鉛筆画も併せて展観。

【ギャラリートーク】9月5日(土)午後3時から

益村千鶴×毛利嘉孝(社会学者、東京藝術大学教授)×田中庸介(細胞生物学者・詩人、東京大学講師)

8.26 WED~9.14 MON

「Abiding」
H80.3×W53cm
油彩、エマルション地、キャンバス
2026年



内堀 豪

本館6階 美術工芸サロン【金工】

Sketch — 銅のオブジェと器物 —

1970年千葉県生まれ。1995年東京藝術大学大学院美術研究科彫金研究分野修了。「工芸の美とは、人が人らしく生きている時にたえず傍にあるもの、あつてほしいもの」という信念のもと、主に鍛金・彫金技法を用いて制作。器物が静かに佇む情景をイメージしながら制作された内堀氏の作品は、どこか懐かしさや安らぎを感じさせるとともに、確かな存在感を湛えている。本展では、素材である銅の豊かな質感や表情を存分に活かしたオブジェと器物を展観。

9.2 WED~9.7 MON



佐藤 泰生展

本館6階 美術画廊【洋画】

— ひかりの狭間 — 〈油彩とガラス絵〉

1945年中国大連に生まれ、1967年東京藝術大学油画科(小磯良平教室)を卒業。1969年同大学院を修了後は、政府給費留学生としてフランスへ渡仏され、5年間欧州にて研鑽を積まれる。帰国後は昭和会展(1977年昭和会賞受賞)、安井賞展など精力的に発表を重ね、現在は新制作協会会員として活躍され、サーカス図やヴェニスの風景、カフェや公園に集う人々や、逗子の海から望む富士などで知られる色彩の画家は毎日繰り返される普段の生活に目が向けられている。

今展では油彩とガラス絵に加えて、瓶やパレットに描いた作品から墨絵まで、これまでの佐藤芸術の集大成となる新作を展観。

【ギャラリートーク】

9月12日(土)午後3時から

佐藤泰生×小杉小二郎

9.9 WED~9.14 MON

「黄色いサーカス」
H181.8×W227.3cm
油彩、キャンバス



矢部 俊一展

本館6階 美術画廊X【立体】

空刻 Horizon

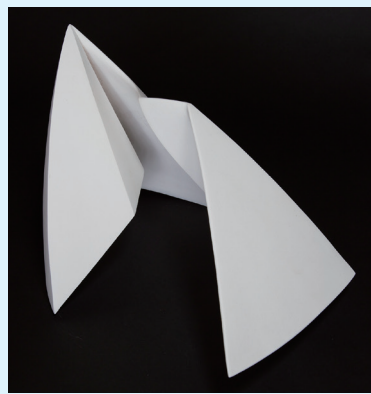
1968年岡山県に生まれ、名古屋芸術大学で彫刻を学ぶ。その後、帰郷し、独立。

手捻りで成形した胎土の表面を暗闇の中で逆光を当てながら削ぎ落とし、空間をも刻み込む意識で制作される代表作の「空刻」シリーズ。

今展では、土と焼成による原初的な造形表現に、彫刻の技法と思考を融合させた「空刻」をさらに進化させたシリーズを中心に展観。

9.16 WED~10.5 MON

「RIDGE」
H25×W35×D25cm



パステル画の小宇宙
大津 英敏 展

1943年熊本市生まれ。東京藝術大学大学院を修了。「安井賞」をはじめ数多くの賞を受賞、日本藝術院会員や(財)美術文化振興協会理事長としても美術業界に多大なる貢献をされており、現在は独立美術協会の中心メンバーとして個展やグループ展で活躍。今展では、パリの美しい風景や、アトリエを構える鎌倉の自然豊かな海の表情を、パステル画の柔らかな色彩に乗せて展観。

9.16 WED~9.21 MON
「セーヌ川のレザンドレ」
H24×W31cm
パステル



本館6階 美術工芸サロン【陶芸】

奥川 真以子 磁器展
— 銕と彩 —

2000年佐賀県立有田窯業大学校卒業後、父である奥川俊右エ門のもとで修業。轆轤の技術を磨き、暮らしのなかに寄り添う、凛とした美しさと柔らかなぬくもりを融合した作品を制作。本展では銕磁や彩磁など心安らぐ磁器作品を展観。

9.9 WED~9.14 MON
(左)「銕磁 輪花鉢」
H13.7×W37×D37cm
(右)「彩磁 輪花鉢」
H11.5×W40×D40cm
磁器



轟 悠(藏人) 展
『奇跡の瞬き — 出逢いの瞬間に生きる』

元宝塚歌劇団・轟悠氏が画家「藏人」として、キャンバスにアクリル絵の具を流し込み偶然性を表現するポーリングアートを制作。本展では、和の世界に息づく「静」と「動」を繊細に映し出した作品約60点を展観。

9.23 WED~9.28 MON
「恋衣の奇跡」(コイゴロモノキセキ)
H72.7×W50cm
キャンバス、アクリル



		9月																															
		1火	2水	3木	4金	5土	6日	7月	8火	9水	10木	11金	12土	13日	14月	15火	16水	17木	18金	19土	20日	21月	22火	23水	24木	25金	26土	27日	28月	29火	30水		
本館6階	美術画廊	準会場	奥谷 太一 展						準会場	佐藤 泰生 展						準会場	大津 英敏 展				準会場	轟 悠(藏人) 展				準会場	河嶋淳司展 橋詰正英展						
			岩谷 晃太 展							十三代 三輪 休雪 展							内村 慎太郎 展																
	美術画廊X	益村 千鶴 展														準会場	矢部 俊一 展 ※10月5日(月)まで																
	美術工芸サロン	準会場	内堀 豪 展						準会場	奥川 真以子 展							準会場	齊藤 秀樹 展				準会場	種田 真紀 展				準会場	百瀬玲亜展					
2 本階館	アートアベニュー	常設展 ※10月19日(月)まで																															

誠に勝手ながら都合により催内容、会期など一部変更または中止となる場合がございます。営業日・営業時間、催内容、会期の最新の情報は高島屋ホームページをご覧ください。



十三代 三輪 休雪
雪山—SESSEN—

1951年山口県萩市に生まれ、1975年アメリカ サンフランシスコ・アート・インスティテュートに留学、1984年「DEAD END」で鮮烈にデビューを飾る。刀で土を斬り出す独特の造形技法と伝統の白萩釉を融合させた作品は、近年、国内外のアートシーンでも高く評価されている。本展では、かつて高島屋で発表した「花冠」、「雪嶺」からさらに深化し、自然の雄大なダイナミズムを具現化した新たな境地「雪山(SESSEN)」を中心に新シリーズの作品を展観。

9.16 WED~9.21 MON
「雪山」
H58.5×W28.6×D28cm
陶器



本館6階 美術工芸サロン【彫刻】

一目を暁ったら見える景色—
齊藤 秀樹 木彫展

1969年東京都に生まれ、1992年大阪芸術大学美術学科彫刻コース卒業後、個展・グループ展で活躍。多くの人々が、一度は触れたことがあると思う身近な自然や、大人になって忘れてしまっている子供の頃に触れた生き物たちをテーマにしたリアルな木彫作品を約20点展観。

9.16 WED~9.21 MON
「雨の日の贈りもの」
H12.3×W7×D5.5cm
椿一本造り、彩色



本館6階 美術工芸サロン【陶芸】

種田 真紀 展 — 華 —

1978年岐阜県生まれ、現在は京都府に工房を構え制作。赤絵細描という伝統的な上絵技法を用い、赤と余白のバランスを見極めながら緻密な描き込みを施す人気作家。花や雪の結晶、レースなどを独自にアレンジし紋様化したデザインが魅力。今展では、暮らしに彩りを添える花器、お皿、茶器、酒器類を展観。

9.23 WED~9.28 MON
(左)「赤絵細描花文ぐい呑」
(右)「赤絵細描花小紋ぐい呑」
各H4.5×Φ6cm



李朝・桃山の美
内村 慎太郎 陶展

1975年鹿児島県生まれ、2008年福岡県糸島市に山居窯を開窯。李朝と桃山時代のやきものに心惹かれ、茶碗を中心に日本特有の美の概念である「寂び」を感じられる作品を発表。本展では井戸や熊川、三嶋といった高麗茶盃をはじめ、唐津や独自の解釈で作られたオリジナルの「高麗茶盃」など新作を展観。

9.23 WED~9.28 MON
「大井戸茶碗」
H9.5×W14.9cm
陶器



高島屋各店美術画廊・展覧会のご案内はホームページでもご覧いただけます。

高島屋 美術

検索

